



# ホネホネ団 ☆ 通信

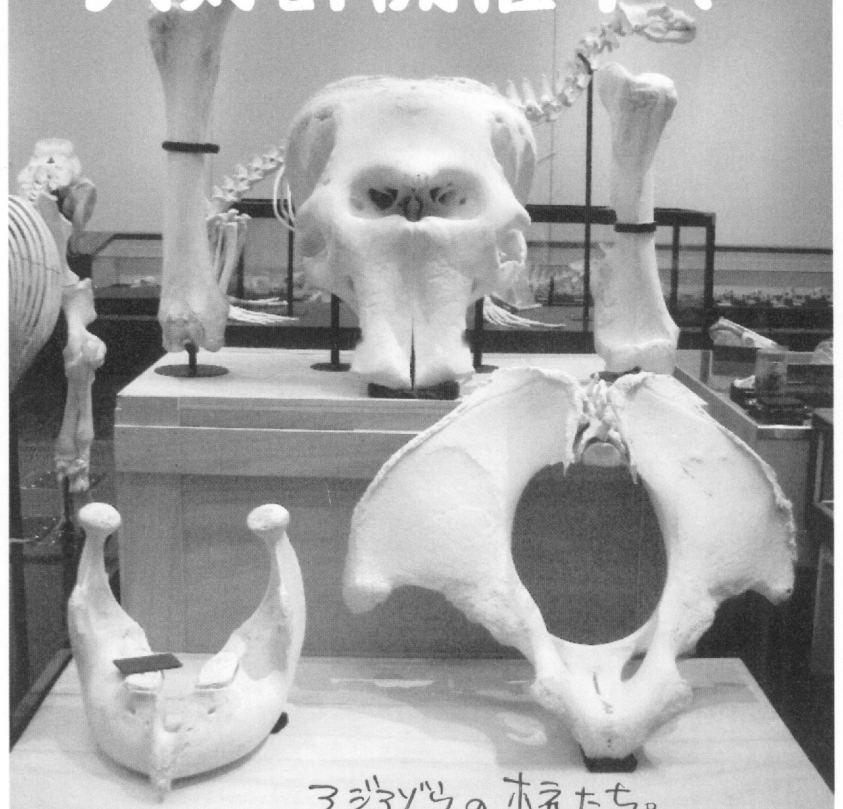
◎ホネ通編集部：たけのホネホネ団  
 大阪市東住吉区長居公園1-23

ついにきた!!  
 2009年10月 第十号  
 2009. 8.18発行



これからむかれるタヌキ。  
 標本としての、第二の人生のはじまりだ。キレイなホネと皮になってね。

## 特別展 「ホネホネたんけん隊」 大好評開催中!



フジツボのホネたち。  
 頭骨だけじゃなく、「バラ」の113個の部位をみられるのも、この展示のポイント。

大阪市立自然史博物館にて特別展「ホネホネたんけん隊」が7月4日〜8月30日の日程で開催されています。ミンククジラ、ジュゴン、ダチョウ、アホウドリ、アカウミガメなど、大阪市立自然史博物館で所蔵する標本を中心に、約600点のホネの標本が展示されています。

この展示では、単にホネの標本を並べるだけでなく、ホネを使って学んだり、ホネを楽しんだり、ホネを見る視点を提案します。同時にホネとかわるさまざまな団体や専門家の紹介も行います。ホネには一般的に不吉なイメージがありますが、その形に魅了される人も数多くいます。2005年秋から2006年夏にかけて、「INAXギャラリー」で開催された「小さな骨の動物園」展は、大阪

、名古屋、東京の3会場でたいへん好評を博しました。この展示会での骨格標本の約8割は、大阪市立自然史博物館の所蔵標本で、生物の構造に興味を持った美術関係者も多数来場し、この展示によって、骨はその形の面白さから、多くの人に訴える力を持つことが明らかになりました。

会期終了まであとわずか。これだけのホネをいっぺんにみられる機会は、もうしばらくないでしょう。ぜひいちどご覧下さい。

(事務局長 和田岳&  
 ホネ展関係者一同)

# ホネ展最大の関連企画

# ホネホネ

# サミット

全貌が明らかに！

いよいよ8月22-23日、ホネホネ期待望のイベント「ホネホネサミット2009」が開催されます。

ホネホネサミットは、博物館や大学などを舞台に、公の財産としてのホネの標本づくりをしている団体や個人、その他さまざまな形でホネの標本づくりに関わっている人たち、そしてホネに興味のある人たちが交流するイベントです。  
いろいろな団体や個人が、それぞれが作ったホネの標本を展示したり、活動内容を紹介したり、皮むきや骨取り技術を紹介します。ホネの魅力や動物の死骸を標本として残すことの意義を知ってもらおう機会にしたいと考えています。全国のホネ好きたちと楽しく盛り上がりましょう！

ドイツのシュトゥットガルトから招いたプロの標本土による剥製と標本の製作実演、恐竜の骨格から復元画を描くワークショップ、たくさんの著書で有名なゲッチョ先生こと盛口満氏、図鑑ZOOなどの恐竜画で有名な小田隆氏によるダブル原画展「ホネを描く」、クジラ化石レプリカの組立て体験などなど、おもしろホネイベントも目白押しです！

## 講演実演

### ●特別企画 標本土の仕事 実演「鳥の裏側」

2009年8月22日(土) 14:30-16:00 大阪市立自然史博物館 講堂

博物館でつくられ、展示、保管される標本は何もホネだけではありません。博物館にある動物標本の代表といえば剥製。そんな剥製、どうやって作られているんだろうと思ったことがある人も多いはず。そこであまり見る機会のない鳥の展示用剥製づくりを実際に見てもらってそんな疑問を解消します。普段博物館で何気なく見ていた(素通りしてしまう?)剥製が違って見えてくるかも…?

### 講演「骨格標本のできるまで—博物館の舞台裏—」

2009年8月23日(日) 14:00-16:00 大阪市立自然史博物館 講堂

骨格標本をつくっている博物館や個人はよりよい作製方法を見つけるために試行錯誤を繰り返しています。ドイツの博物館でも日々ホネと格闘して質のよい標本を後世に残すべく努力しています。そんなドイツのシュトゥットガルト自然史博物館ではどういうふうに骨格標本がつくられているのか、つくられてゆくのかを写真と一緒に紹介します。

### 講師

ヤン・パニガー Jan Panniger

ボーフム市立標本作製技術職業専門学校を卒業後、2001年よりシュトゥットガルト バーデン・ヴュルテンベルク州立自然史博物館に鳥類の標本土として勤務。相川稔

2000-2007年、ヘッセン州立ヴィースバーデン博物館自然史部で標本土として働く。2008年帰国。日本の自然史系博物館に標本土として関わるべく活動中。

### ●ホネホネ☆発表会 大阪市立自然史博物館 講堂

『博物館ボランティア連携による「博物館うらがわツアー」の意義』  
2009年8月22日(土) 13:00-13:20

福井市自然史博物館・骨部 田中嘉寛氏

博物館ボランティアと共に、博物館の役割や標本を残す意義を来館者に伝える「博物館うらがわツアー」を行っている。そのアンケートを比較解析し、博物館ボランティアが解説を行う意義を考察した。

『忘れないで!! 私たち』

2009年8月22日(土) 13:30-3:50

魁!!骨塾

ハラジロカツオブシムシを使う骨標本作製。  
その利点は捨てられてしまうことの多い多くの小骨の標本化です。

## ワークショップ

### ●ワークショップ

「恐竜復元画に挑戦しよう！」

8月22日(土) 23日(日)  
両日とも11:00-11:30、  
13:30-14:00

講師：徳川広和(古生物造形の達人。恐竜・古生物復元模型家)

会場：自然史博物館本館1階  
集会室

料金：50円 時間：約30分

定員：一回 30名(付き添い・見学除く)

主催団体：きしわだ自然友の会・古生物ゼミ

\*きしわだ自然資料館での「きしわだ恐竜教室こどもの部」で実施しているワークショップです。恐竜の頭骨図をもとにした復元画製作に挑戦しましょう。

## ホネホネ☆ 発表会

北は北海道、南は九州・沖縄まで！遠方からありがとうございます！

# 出展者の みなさん

なにわホネホネ団

骨骨倶楽部

豊橋市自然史博物館ボランティア資料整理ボランティア（脊椎動物分野）

土屋英夫

群馬県立自然史博物館

京都大学大学院地質学鉱物学教室 古脊椎グループ

岐阜県世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ ボランティア有志「骨部」

芥川緑地資料館（あくあびあ芥川）

自由の森学園 骨部屋

中村玄（東京海洋大学海洋科学部海洋環境学科鯨類学研究室）

ボーン企画

小西雅樹（近畿大学農学部環境管理学科水圏生態学研究室）

西南学院高等学校生物部

岐阜県博物館・ダチヨウ組

福井市自然史博物館・骨部

安芸ホネホネ団

盛口満

成安造形大学人体表現研究室、きしわだ自然資料館・古生物ゼミ

吉村文孝（名古屋大学・設楽フィールド）

特定非営利活動法人 生態工房

魁！！骨塾

沼田町化石館

ほねっこ倶楽部

奈良教育大学 パンドラの会

近畿大学農学部 里山調査局

小笠山の自然観察会

岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理理学研究センター

滋賀県立琵琶湖博物館・ほねほねくらぶ

みなくち子どもの森自然館

山口未花子（北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座）

林耕次（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科）

特定非営利活動法人 東洋蝙蝠研究所

GALVANIC

田村秋彦

人類学系

古生物学系

大学・高校系

博物館系

ホネ好き個人・サークル系

アート系

理科教材系

自然観察系



協賛：株式会社アリス館  
株式会社エヌ・ティー・エス

kao community museum program

花王・コミュニティミュージアム・プログラム

ホネホネサミット2009は、「花王・コミュニティミュージアム・プログラム2008」の助成を受けています。

ふりかえれば数年前、最初の取材のときに「サミットやりたい」とぼろりと口に出したのがはじまりでした。そんな冗談みたいな企画、といわれながらも、思い込むと止まらない団長が暴走。つぎつぎといるいるなメディアで勝手に「開催宣言」を行い、あとには引けない状況に。  
2007年の花王コミュニティ・ミュージアム・プログラムの助成対象となつてからはますます調子づき、様々な人を巻き込んで、ついにこの日にたどりつきました。  
みなさん、ありがとうございます！（団長 西澤真樹子）

# サミットのゲスト

## ミノル氏来阪!



去る7月20〜26日、ホネホネサミット初日のプログラム、実技「鳥の裏側」の準備のため、ゲストである相川稔（以下ミノル）氏が来阪した時の鳥の皮むき作業をレポートします。

### ★標本を準備する



講演会の限られた時間のなかで標本づくりの概略を見せるには、いわゆるお料理教室のように、いろいろな段階の状態のものを用意して置く必要があります。準備されたのは4羽のガラス。これらを剥製に仕立てる直前の状態にもっていくため、2日間、団長とミノル氏で皮むきと皮の洗浄、保存処理を行いました。

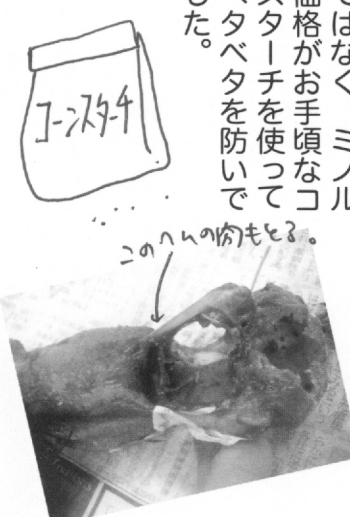
団長はこの日をとてもしみにしていました。ここでは、鳥の仮剥製を作るとき羽を汚さないよう細心の注意を払ってきれいに皮をむき、脂と汚れをていねいに取り除き、そのままホウ酸などの粉を払って終わり、という方法がとられるところが多くあります。ところがドイツだけでなく海外では、鳥は洗って処理するのが基本で、逆に「どうして洗わないだ?」（注：ミノル氏は長野県人）、と質問されました。

洗えないと思ったら怖くて作業できない、とも皮の裏に脂がこつりついている力毛や力毛メのような鳥や、サギのように羽の真っ白な種類は洗えばさぞかしきれいになるに違いありません。私も鳥の皮は洗ってきませんでした。それは「濡らしたら羽がバラバラになってもとに戻せないかも」などの心配があったからで、もし洗えるものなら洗いたいし、ぜひその技を伝授してもらいたいものです。もしあとから羽をきれいにすることが出来るなら、汚れの有無に神経をそれほど使わなくても良くなり、鳥の剥製を作れる団員が増えにくいという今の状況を突破できるかもしれません。

★皮むき  
鳥の皮むきは、ふだんホネホネで剥いているのと一緒です。違いは、からだをなるべくつなげたまま取り出すこと（図）。



これは剥製の中身を作るときに、からだのポリウムがどのくらいか判断するためだそうです。胸を開いて、肩のところを骨を切り離し、膝をはずしたあと、尾椎をきれいに先端まで外します。尾は、上についた尾羽が抜けないよう、用心のためふだんは尾椎を皮側に数個残した状態で切り離していますが、丁寧に剥けば三角のかわいい骨を最後までまるごと取り外せます。そして背中をはがし、首は第一頸椎と頭骨の間までめくり、切り離します。眼球を外し、義眼のサイズを決めるため、黒目の直径を計測します。その後は頭骨の裏側の肉を取ったり、頭骨の後側を切り取り、脳をかき出します。ドイツには、直訳すると「脳さじ」なる、脳みそをかき出し用の専用の道具があるらしい。ちなみに脳は、あとで水洗するのでホウ酸をふりこむことはしません。同じように、皮むきのときもホウ酸ではなく、ミノル氏は価格がお手頃なコースターチを使って手のベタベタを防いでいました。



### ★肉取り

体をあらかた外したら、皮側に残っている上腕骨を外します。このとき、肘から上腕の部分のみをむきだしにして肉のついたまま紙の上に載せ、濃い鉛筆で周囲をなぞりながら、上から見た様子と同様からみた様子をスケッチします。あとから腕の筋肉を再現するための作業です。博物館は剥いた鳥の中身を液浸標本にして保管していますが、浸けてしまうと筋肉が縮んで実際の形と変わってしまうので、このように描き写すのだそうです。ちなみにドイツでは、上腕骨は皮側に残していることが多かったそう。その場合でも、スケッチしたあと腕の肉は丁寧に取り除きます。



それから肘。手羽先を食べたときにわかるように、肘から先にもけっこう肉がついています。ここをむき出しにして、丁寧に肉を外します。サギなど肘から先の長い鳥は、皮をひっくり返すににくいので、外側から切れ込みを入れて肉を取りのぞいていました。

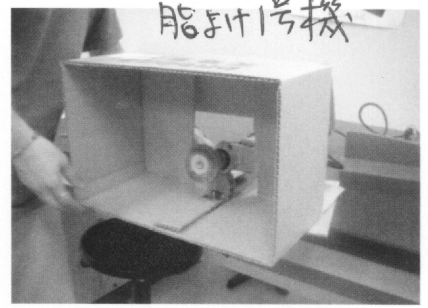
最後に、足の裏側に縦一文字の切れ込みを入れ、指をうごかしている太い腱を引き抜いて切ります。乾燥して腱が縮み、足の指が曲がらなくなってしまうので、先に外しておくのだそうです。鳥の足の腱はとても太く丈夫で、一気に抜けるとちよっとうれしくなります。腱が抜けたあとの空間は、剥製を立たしめるための針金を差し込む場所になります。

ホネホネサミット、くわしくはホームページで。

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/tokuten/2009hone/index.html>

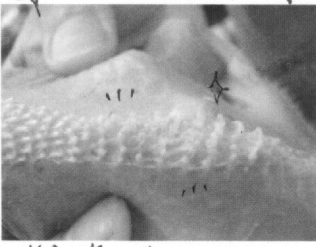
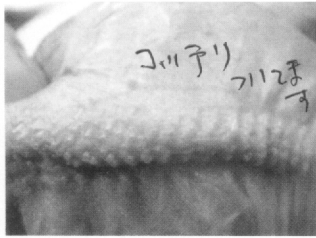
★皮の裏の脂取り

衝撃のワイヤブラシ法



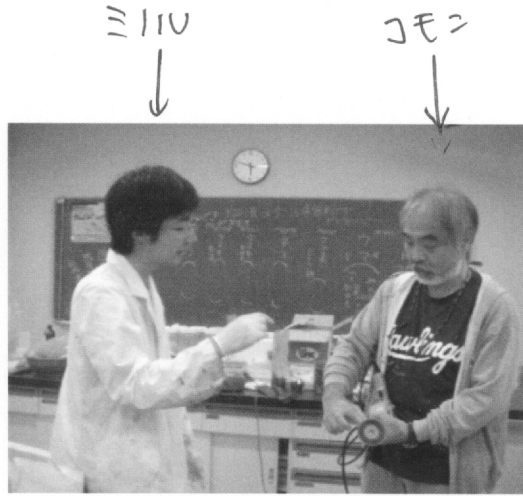
一度でもカモヤキジなどを剥いたことがある人なら、皮むきの何倍も脂取りに時間がかかって閉口した記憶があるはずですよ。ちよつとずつ脂の袋を破いて、中の脂をティッシュに吸い取って、という方法はとても時間がかかります。

これを一気に省力化する方法として、真鍮製のワイヤブラシを取り付けた電動ドリルが登場しました。ドリルを机に固定し、汚れよけの屋根を段ボールで作って周りをおおっただけのシンプルな作り。さつき剥いたガラス皮の裏側にくつついた薄い皮などをピンセットやメスで取り除き、弾力を保つために水をつけた歯ブラシで皮の裏側を湿らせ、指の腹でささえながら回転するブラシに押しあてると・・・！！



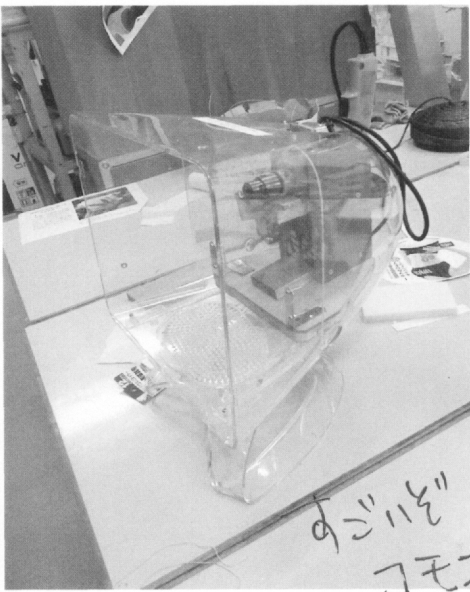
驚くほどきれいに脂が取れる！電動歯ブラシで歯間の汚れを高速でかき出しているようなイメージ。羽軸の間の脂の袋が破れ、中の脂はブラシの回転とともに飛んでいく、という仕組み。特に背中など、羽軸のつけねにびっしり脂が詰まっているような場所なら効果靦面です。

剥製を作る際には、脂の膜で固められている羽軸が一本一本さばけて自由になっていることがとても大事なのだそう。くつついたままだと乾燥によって皮膚とともに羽が引きつれてしまっただけでなく、あとから羽の位置を一枚ずつ調整できなくなると聞き、感心しきり。なるほどねえ。



上写真：通りがかりにドリルに目を止めた樽野顧問。ミノル氏を質問攻めにし、数分後、「よっしゃ」とつぶやきながらにやりと笑い、ホネホネ団用の「鳥の皮裏脂飛ばしマシン箱」を作るべく去っていった。

左写真：6日後。「段ボールだと作業のとき手元が暗い」という意見を受け試作された初号機。全面アクリルで手元の明るさは完璧。なんと、Apple Cinema Displayのケースを再利用したという警沢仕様！かっこいい。



★皮洗い

いよいよ洗浄。きれいに脂を除去された鳥皮をざぶつとコンテナに入れ、血の汚れで水が濁らなくなるまで流水で洗います。頭骨の中もとくに丁寧に。その後、一度水気を切って、中性洗剤を入れたコンテナに入れ、さらに手でざぶざぶと優しく洗います。ひっくり返した頭はこのとき戻します。水で皮がのび、さらに洗剤により摩擦が少なくなるとガラスのように頭の大きいものでもすんなり戻ります。皮や羽に負担をかけなくてすみそう。しばらく洗ったあとは、20分そのまま洗剤に浸けてから、2回すすぎ、しぼって水気を取ります。



★皮の防虫処理

(ここで使う薬品はドイツのもので「EULAN SPA」といい、セーターや毛糸に虫を寄せ付けなくさせるために開発された忌避剤です。日本では何が相当するのかまだ調べられていませんが、参考のために書いておきます)

コンテナに38-40℃のぬるま湯を、標本と水の相比が1:100-1:80の間になるよう入れます。水リットルに対し10グラムの塩を溶かし、EULAN SPAを1-2滴落として、皮を沈め、手でゆっくりかくはんしながら20分浸けます。その後、酢酸を水リットルに約1ミリリットルの割合で混ぜ、リトマス試験紙をみながら、PHを4.2-4に調整。そのまま手で、羽や尾のねじれがないよう裏返したり揉んだりしながら30-40分間皮を浸け込みます。



鳥皮ドライヤー中。



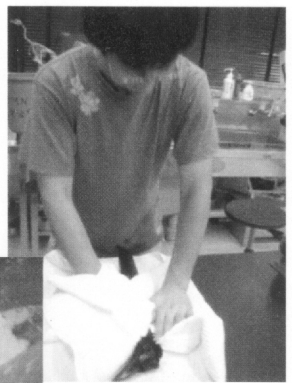
ふわふわになりました



★乾燥  
水洗し、タオルなどで包んで押しながら大まかな水分を拭き取った皮を、コーンスターチを入れたコンテナの中に入れて、水分を吸い取らせます。水分のあるところは粉が残ります。乾いたところは、乾いたところをつかなくなるので、羽をほぐすように振りかけては押さえ、はたき落とす、という作業を繰り返します。太めの竹ひごのようなもので、持ち上げた皮をパンパンとたたき、ふるい落とします。

その後、羽のつけねに残った粉の固まりをほぐしながら、ドライヤーをかけ、乾燥させます。エアークンプレッサーと併用して、かたまりを吹き飛ばしてもいいそう。

べったりしていた羽が膨らみ、きれいなふわふわに戻っていくこの行程はちょっと感動的。死にたてのときよりもずっとかわいらしいカラスのふわふわ皮ができました。当日、この皮からどんな剥製が出来るのか、とても楽しみです。



上写真：鳥皮乾燥中。粉をまぶし、羽をほぐしていく。

ミノル氏は団長の高校時代の同級生で、盛口満ことゲッチョ先生の教え子でもあります。高校卒業後、単身ドイツに渡って標本土のための専門学校に日本人として初めて入学し、卒業後はドイツのいくつかの自然史系博物館で10年以上標本土として働いてきました。昨年帰国し、身につけた技術を日本の博物館で活かすべく活動を続けているところです。サミット当日は、そんな海外の博物館の裏方の様子をとことん話してくれるはず。ホネホネ団員、必見です。

(団長 西澤真樹子)

**\*寄稿\***  
**標本土って  
だあれ？**  
相川 稔

博物館では標本を集め、研究、保管、展示をしています。そして集められた標本は研究資料として、さらには歴史の証拠としてその価値と質を保ったまま、失われることのないように未来へ伝えてゆくことを最も重要な使命としています。

標本の収集といっても死んだ動物や岩石を拾ってくればそれだけでよいわけではなく、それぞれ標本となる素材の特性と研究、展示などの目的に応じて適切に処理されなければ長期の保存や展示、研究の役には立ちません。博物館へ行って展示してある標本などを誰がつくったかなどは気にすることは滅多にありませんが、それぞれすべての標本について確かに何者かが何らかの手を加えているのです。そのような、自然素材を標本化するという仕事を専門的に行っている人のことを標本土といいます。

学芸員が博物館で研究という分野を専門に担当しているように、標本土は自然資料の標本化とその管理、保守を担当します。そして特別展の企画や常設展の更新にあたっては学芸員と協力しながら展示される標本の選択もしくは新規作製、模型、レプリカ、ジオラマの製作に至るまで、博物館独自の、個性ある展示ができるように標本と直接関連する技術的なことすべて行います。また近年では文化財の修復と同じような意味合いで非常に古い標本を修理、修復する機会も増えてきています。

モノ（標本）があって、蓄積され、伝えられてこそ博物館であり、それに必要な知識と技術を伝えてゆく標本土は博物館が社会に対して最も責任をもって行うべき活動を具体的に行っているともいえますが、残念ながら日本の自然系博物館にはこのような標本土はいません。

ヨーロッパの博物館では博物館を博物館たらしめる標本を製作・保存・維持管理し、魅力的な展示をつくり自然の面白さを伝えるために必要な技術を持った標本土は欠くことのできないスタッフとして館の大きさを問わず活躍しています。特にドイツでは世界で唯一、標本土のための専門学校があり博物館の持つもっとも大事な財産である標本を未来へ伝えてゆくための技術者の養成をしています。



8月22, 23日に開催されるホネホネサミット2009にはドイツ南西のシュトゥットガルトにあるバーデン・ヴュルテンベルク州立自然史博物館で鳥類の標本土として働いているヤン・パニガー氏も参加しますので楽しみに。

標本士は扱う素材の性質から独立した三つの分野があり、生物学標本士、地学標本士、医学標本士に分けられます。

## 標本士の 仕事の分野

### ★生物学標本士

生物学標本士は主に動植物の標本の作製をします。つくる標本はアルコールやホルマリンといった保存液につけたままの液浸標本と呼ばれるものと昆虫標本や剥製標本のような乾燥標本と呼ばれるものです。標本は研究、展示用の違いに関係なく保存処理されますが、学術標本の場合はかなり傷んだ状態でも標本化し、見た目のよさを犠牲にする場合があるのに対して展示用標本は展示に耐えうる、状態の良いものを選び、解剖学的に正しい形と姿勢に標本化します。生物学標本士は主に博物館や研究所、大学などの自然系の施設で働いていますが剥製屋さんとしても活躍しています。

### ★地学標本士

地学標本士は鉱物、岩石などの切片標本、化石のクリーニング、型取り、展示用の模型作りなどを行います。また発掘作業などにも出かけ、現場での応急処置や梱包をします。生物学標本士と同じく、博物館で働く標本士は常設展、特別展の製作も重要な仕事のひとつです。地学標本士は鉱物学、地質学、古生物学の分野で活躍していて、それぞれ専門化が進んでいます。博物館、研究所、官公庁もしくは関連産業に従事しているか、生物学標本士のように化石・鉱物関係の標本屋さんとして働いています。プレパレーターという呼び方自身日本ではまだあまり定着していませんが英語でpreparatorというと化石のクリーニングを行う標本士を指すのが一般的のようです。

### ★医学標本士

医学標本士は特に解剖学、病理学、法医学の分野で活躍し、病院や研究所などで働いています。そこで標本士は調査、研究、記録、または教育用として標本作製を行い、検死などにも参加します。とくに医学標本士は臓器、もしくは遺体全体を保存し、液浸標本や標本作製など生物学標本と共通する技術のほか解剖学的、病理学的な研究などに用いるための固定・保存法や臓器、神経、血管標本、プラスチックネーションなどさまざまな技術や方法があります。  
(相川 稔)

今月の 2009年3月~  
7月の成果品  
むきました



5月10日の日

#### ●2009年5月10日

参加者数：20名（内、見学者3名 →新入団3名）

内容：ハリモグラ1体、ミミセンザンコウ1体、エリマキキツネザル1体、タヌキ1体、アライグマ21体、ネコ2体、ハヤブサ1体、ハシブトガラス1体の皮剥き。あとは、テンやタヌキの骨のクリーニング、ネコの骨の肉取り、ジャンガリアンハムスターの仮剥製作成。

備考：入団試験以外は、肉取りの日。来週の鳥骨団の予行演習。西表鳥類調査隊入隊試験1名（→合格！）

#### ●2009年5月4日

参加者数：13名（内、見学者2名 →新入団1名）

内容：タヌキ1体、キジバト2体の皮剥き。オオミズナギドリ1体、ハシビロガモ1体、ノスリ1体、オオタカ1体、ケリ1体、セイタカシギ1体、ハマシギ1体、キソデボウシインコ1体、ワライカワセミ1体、コゲラ1体、アリスイ1体を骨優先で皮剥きして、あるいは腐った死体を処理して、中身を腐らせBoxへ。

備考：鳥骨団の日。他に入団試験1名、西表鳥類調査隊入隊試験2名（→1名見習い隊員に採用、1名は修行してから再試験）

#### ●2009年4月29日

参加者数：33名（内、見学者6名 →新入団3名）

内容：タヌキ1体、アライグマ1体、ネコ2体、キジバト1体の皮剥き。あとは、たまっていた皮を剥いた死体の肉取りをして、腐らせる準備。外ではスナメリ1体の解体。鳥骨団はトビ1体、ハヤブサ1体を骨優先で皮剥きして、中身を腐らせBoxへ。

備考：入団試験以外は、肉取りの日。来週の鳥骨団の予行演習。西表鳥類調査隊入隊試験1名（→合格！）

#### ●2009年3月15日

参加者数：32名（内、見学者12名 →新入団7名）

内容：タヌキ3体、キツネ1体、アライグマ1体、ゴーラル1体、オオカミ1体、アオバト1体の皮剥き。イタチ58体の皮なめし。コサギ1体の骨洗い。

備考：入団試験以外は、イタチの皮なめしの日といった風情。西表鳥類調査隊入隊試験1名（→再試験）

#### ●2009年6月20日

参加者数：29名（内、見学者10名 →新入団1名）

内容：タヌキ1体、アナグマ1体、シママンダース1体、ヌートリア1体、コウベモグラ1体の皮剥き。ウマ1体、ジャガー1体、ハリモグラ1体、エリマキキツネザル1体、ノスリ1体、トビ1体の骨洗い。ネコ1体、タヌキ3体の骨の肉取り。ササゴイの仮剥製作成。

備考：NHKの取材が入りました。準備中のホネの特別展会場の様子も見に行きました（なんせ主催者だから）。

# 「カラーアトラス獣医解剖学【上巻】」

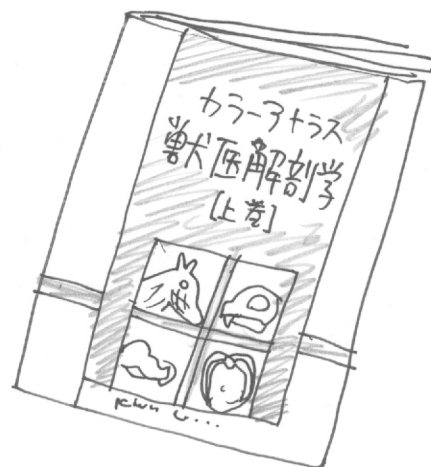
カラーアトラス獣医解剖学編集委員会監訳

9,500円+税 チクサン出版社

ISBN 978-4-88500-655-5

本  
Books

ほね本紹介



「カラーアトラス獣医解剖学【上巻】」カラーアトラス獣医解剖学編集委員会監訳 チクサン出版社（2008年）という、昨年出たえらそうな教科書を紹介します。

元はオーストリアとドイツの先生が作ったものの英語版を和訳した三番煎じ。B級ホラー映画みたく監訳が「なんちゃら編集委員会」ってなノリも笑える。翻訳者の中に、先輩やら後輩やらに混じってあの遠藤秀紀さんもちよこつと担当している。

教科書なので、学生さんに買ってもらう本である。カラーA4版、414ページで税別9,500円。この値段だったら、写真や図がそのまま獣医国家試験に出まくれば「安い！」と言える。しかし油断してはいけない。実は上巻と下巻に分かれている。下駄のように片方だけでは体をなさないのである。2冊買うとバカにならない価格である。獣医解剖学会は自らの過去に振り返りもつすこし学生の懐を暖かく保護してほしい。

四半世紀前、わが国の獣医学生は4年で卒業単位を修得し国家試験を受験した。今は医学・歯学並みに6年制である。ただし生涯収入は桁違いに安い。自ら足を知らねばやってられない。それでもここ十数年の間に獣医学の応用分野は格段に進歩し、講座数も倍ほどになった。が、相変わらず基礎分野の解剖学は専門課程第一期から習うらしい。4年制の時のように1年で詰め込むのか、それとも2年くらいじっくりやるのか、正確なところは知らない。いずれにしろ、解剖学の試験を終えてから国家試験までタイムラグが何年あると思う？脳が錆つき半時間前のごさえあいまいな私は確実に無理。今の学生さん達をもっと尊敬することしよう。

前置きが長くなったが、中身に入るとしよう。ぺらりぺらりとめくっていると、売り文句どおり美しいカラー写真が多い。臨床を意識して小洒落れたレントゲン写真がときおり挿入されている。図もカラーで一つひとつはとも判りやすい。しかし往年の名著、加藤嘉太郎先生の家畜比較解剖図説とくらべると、文章と写真・図がごちゃごちゃ入り乱れ、全体としてのまとまりに欠ける。全刊を左文章、右図録に統一された加藤先生のセンスの良さに改めて感じ入った。形態学的特徴をリアルに教えようとするあまり写真の数が多すぎる。この辺りが値段を吊り上げた主因であろう。確かに写真の質は良い。しかし、遊び心ゼロ。キリンとブタの頸椎を並べるとか、せめてヒトと

の比較をしてみるとか、「へえ〜」ってネタを、枠付でいいから載せるくらいの度量が欲しい。ドイツ人のユーモアの限界をここに見た。

とにかく動物種間の比較が甘い。つか、そういう概念がない。動物の形態は神とやらが思いつきで決めたものではなく、環境や生態系に応じて進化の過程で形成されたことは、多少こまじやくれた友の会ジュニアでも理解している。しかし、「ウマとウシには第一頸椎になんちゃら孔はあるものの、イヌとブタにはない。」とか、ジュニア若年層に「なんで〜」と問われて窮するような貧弱な記載で留まっているのは実に悲しい。これだけのカラー図説を載せた本を国家試験のための詰め込み教具にしておくにはおしい。毎度毎度、珍獣のへんてこりんさにハート直撃されるホネホネ団にとっては、豆知識として使えても、このままでは実務には役立ちそうにはない。カラー写真につられて買ってしまってから反省した。9,500円あれば阪神の地下でエクレアがいくつ買ったであろうか？あまりに悲しくて1年ほどまともに読んでいなかった。ようやくこの機会にまじめに読んでみたのであった。そう思って悲しみにくれつつページを繰ってゆくと、「体の動きの静力学のおよび動力学的な機構」という項目で手が止まった。なるほど解剖と運動生理、臨床が合致した野心的な分野だ。ただしウマだけ。さすが、首の差、鼻の差の写真判定で億単位の金を動かす動物。学会長がドリトル先生だったら、ここはとて魅力的な分野になるだろう。パンダやツ



ほね本紹介

次回予告

次のほね本紹介は

## 「鳥の骨探」

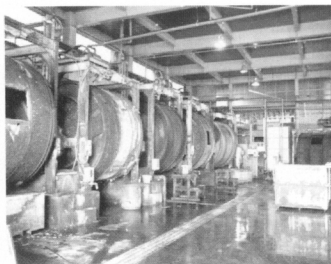
(松岡廣繁／総指揮 NTS／発行

2940円)

誰か書いて～ (編集長)

チブタの前肢の動きが欲しい。全速力で疾走するチータやインパラの足と体幹部の動きなどをリアルに解説してほしいなあ。モグラのトンネル掘りやネコパンチのコマ撮りもうれしいかも。

骨、筋肉、関節ときて、内臓が続く。ただし上巻は消化器系だけで、あとは下巻にto be continued。臓物類は図や写真の質が良いので理解しやすい。肝臓の立体組織は永年むず痒かったところによくやく手が届いた。いずれタヌキの解剖図説「タヌキの剥き方指南します」を製本化してやろうとたくらんでいるので、実に参考になる。下巻を買う気になってきた。エクスリアはもうすこし我慢することしよう。



## 皮革工場の本場！ 「レザータウン高木」 in 姫路 7月13日(月)

遠征  
報告

←洗淨用ドラム

村団員の企画で行ってきた月曜日企画だったので武田団員とその友人、団長、田の4人でした。姫路でおいしい昼ごはんを食べたあと、姫路駅から15分ぐらいのレザータウン高木(姫高皮革事業協同組合)に到着。姫路っていうのは皮革の産地らしく、高木には何社もの工場が集まっている。なにわホネ団が何者なのかを説明し、「どうやったら毛皮をうまくなめせるかで悩んでるんです」というと、「ウチは毛の付いてるのはやっけないんや」・・・

とはいえ、半日つきっきりで案内してもらい、まずは工場見学をさせてもらった。(有)新喜皮革の工場では、馬と牛の皮を作っている。売りなのは馬の尻のコードバンというところで、この部位をなめせるのは、アメリカに1社と自社の世界で2社だという。本来皮革は裏面を表に出して製品化するのだが、コードバンは厚いので表側を削って真皮部分を表に出して製品化する。削った後にガラスで磨くのでツルツルのピッカピカ。肝心の皮の処理は、洗う↓なめし液(クロムかタンニン)に漬ける↓引っ張ったり叩いたり↓染色↓縫製。ホネホネ団と基本は同じ。ただ、なめし液のクロムは毒物だから使えないし、タンニンは大変そう。



原皮(馬の皮)。塩漬け



コードバンを干している

ホネホネ団で使ってるミヨウバンは工場では使ってなかった。

それにしても、工場では解説ビデオを見せてくれ、たった4人の見学者のために案内してくれ、至れり尽くせり。その後、近所にある兵庫県立工業技術センター皮革工業技術支援センターに連れて行ってもらった。支援センターでは、基本的に製品テストを受け持つみたいで、いろんな分析機器が置いてあった。例えば、皮の強度を測るひっぱり試験機とか色落ちの試験機とか、化学系のおいさを測るのとか。こういう機械はすべて1時間いくらで貸してもらえらしい。もしホネホネ団が皮のなめしをしたいといえれば、なめす用のドラムを使わせてくれ、引っ張り試験をしたいといえれば、試験機を使わせてくれるらしい。

最後に親切に、薬品会社と大阪府の試験センターの電話番号を教えてください。ほんとに何から何までお世話になって、なんでも教えてください、ありがとうございました。企画してくれた武村団員もありがとうございました。充実の1日でした。

(編集長 田中)

今回はホネホネ探検隊展とホネホネサミットのプレリリースのため、新聞やラジオがいっぱい。

# 恒例の 取材記録

- ・「あさひ ゆめほっと」くろーずあっぷ〜野生動物の生きた証を未来に残す標本作り〜
- ・FM NACK5 (埼玉県エリアのラジオ局)
- ・2009年5月 朝日新聞関西版科学欄「波」に団長連載。関係者で読んでいる人が多かった。
- ・2009年6月 タウン新聞 (地元折込誌の、東住吉・住吉・阿倍野版) ジュゴンのかっこいい写真が掲載された。
- ・2009年7月3日 NHK「ニューステラス関西」 ホネホネ団の作品とホネ展を放映。
- ・2009年7月14日 ジャパンFMネットワーク「デイリーフライヤー」  
ホネホネ団とホネホネサミットの取材。北関東でも流れたらしい。  
栃木県に調査に行っていた水草の学芸員が偶然耳にし、驚いてメールしてきた。
- ・2009年6月28日 読売新聞 「動物の骨、ブームです…標本展示・写真集なぜか大当たり」←YOMIURI ONLINEで読める  
(<http://www.yomiuri.co.jp/science/news/20090628-OYT1T00041.htm>)
- ・2009年7月25日 15時42分配信 産経新聞 『骨格標本魅力に“ホネ抜き” “なにわホネホネ団”』  
Yahoo japan NEWSでも配信、サイエンスニュースのトップに。  
(<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20090725-00000105-san-soci>)
- ・8月13日 ABCテレビ「おはよう朝日です」朝のニュースで団長がホネ展とホネホネ団を紹介。  
この日の特別展入場者数は凄まじかった。

# 本 Books せいどん

ホネホネどうぶつえん

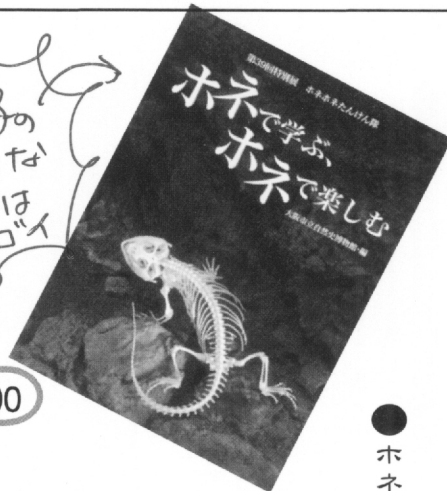


¥1,575

松田素子(文)・大西成明(写真)  
西澤真樹子(監修・イラスト)  
アリス館

ホネホネ団長の絵本、新作がついに発売!  
今度のホネホネたんけんたい、どうぶつえんにやってきました。おおきなくちを がばっとあけられるのは、だれのホネ? のっそのりのは、だれのホネ? ふとーい足はだれのホネ? 動物園でみんな知っている、あんなどうぶつやこんな どうぶつを、きれいな写真とわくわくする文章でみせます。最後には、詳しいホネの役割を動物ごとに解説。

ホネが好きになれば、もっと動物が好きになる!



¥1,000

ホネホネたんけん隊展示解説書

「ホネで学ぶ、ホネで楽しむ」

特別展「ホネホネたんけん隊」の展示解説書。魚類から両生類、鳥類、哺乳類、さらにはウニやナマコに至るまでの、さまざまな分類群のホネが満載。さらにはホネの比較、ホネ標本の作り方、法律の知識に文献まで。この分量さと情報量でこの値段! ぜひお買い求めください。

猫でもできる豚足くん

なになわホネホネ団謹製の豚足組立て標本マニュアル。脂の抜きかた方から組立て方、台への固定のしかたまで、イラストと写真で解説。

¥300



¥250

獣の標本作製ガイド

なになわホネホネ団謹製のお手軽標本づくりマニュアル。死体の扱い方から送り方、皮の剥きかたからなめしかた、ホネ標本の作り方までイラストで解説。

## へんしゅうこうき 編集後記

みなさん、ホネホネたんけん隊展はご覧になりましたか? あれだけのホネが並んでいる展示はないですよ。野団員がサイの肋骨の数が多すぎて納得いかん! って言ったり、和田事務局長がミンククジラの尾椎は民芸品みたいって言ったり、それぞれの感想がありますね。私は自分が剥いたヒクイドリがきれいに組みあがったのが感動でした。

そして何より印象的だったのは、内覧会の10分前まで展示を作っていた団長と団員です。お疲れ様。

★団員の皆様にお願ひ★

ホネホネ団通信では常時原稿をお待ちしています。特に! 自己紹介をまだ書いていない団員の皆様、メモで結構です。団長に渡してください。手書き原稿は団長、事務局長まで。メールで高田に直接送りつけてくれてもかまいません。よろしく。



(編集長 松田素子)

原稿は [soji@mus-nh.city.osaka.jp](mailto:soji@mus-nh.city.osaka.jp) に送ってください。